

11月20日アナリスト向け決算説明会質疑応答

- Q. 資料 23 ページで、シートについて、上期は利益が大きく上振れしているが、下期は売上が 100 億以上増えているにもかかわらず利益がほとんどフラットとなっている。この内容をもう少し詳しく教えて欲しい。
- A. 売上の増加は自動車の生産が好調なことによる。利益がマイナスとなっているのは、カーメーカーからの材料の値下げが当社の材料の値下げに反映しきれない、中国の新規生産拠点立上げによるコスト増、試験研究費の増などによる。
- Q. 材料費というのは何か？
- A. 鋼材になる。集購価格が売価に効いてくる。
- Q. DSA の比率とこの先の見通しについて教えて欲しい。
- A. 当社生産における DSA の比率は、数量ベースで、CQ1、CQ2 は 24%、CQ3 は 19%、CQ4 は 27%となっている。DSA については、今後比率がどんどん多くなると考えていたが、スピードが若干落ちている。但し、新しい引き合いは DSA が多く、DSA 化は進んでいる。
- Q. DDS 事業の設備投資、減価償却費の状況を教えて欲しい。
- A. 通期実勢で、設備投資が 42 億円、減価償却費が 64 億円となっている。当初予算より若干少なくなっている。
- Q. HDD 用サスペンションのシェアが下期 40%弱と下振れしているが、上がっていない背景は何か？
- A. DSA が伸びていない。また、お客様の中で使い勝手が悪いということで 6 月以降一時納入停止となったものがあつた。しかし、生産再開後の納入は、以前の水準である 50%のものが現在では 30%まで戻ってきている。
- Q. HDD 用サスペンションにおける他社のシェアを教えて欲しい。
- A. 具体的な社名はあげられないが、2012 年通期で、当社が 42%、他社は 35%、17%、5%と推定している。
- Q. HDD 用サスペンション全体に対する DSA の比率は？
- A. 現在 20%弱と思われるが、DSA でのシェアは弊社が一番であると思う。
- Q. HDD 用サスペンションの用途別の比率は？
- A. 4~9 月の用途別では、デスクトップ用が 32%、モバイル用が 54%、サーバー用が 14%となっている。
- Q. 6 月以降受注が止まっていたのは、どのエンタープライズ向けか？
- A. 3.5 インチ（デスクトップ）用のものである。

- Q. DDS 事業の収益はどのようになっているか？赤字になっているのか？今後収益を確保するための対応は？
- A. 収益としては非常にクリティカルな状態になった。今後はシェアアップや固定費の削減を図る。たとえば、現在 1.2 秒/個のラインタクトを 1 秒/個に上げるなどの生産性向上対策を実施していく。
- Q. 中計の数字と比較したとき、精密部品と産業機器ほかのセグメントにおける差はどのようなところにあるか？
- A. 精密部品に関しては、マイクロコンタクタの拡販がうまく進んでいないこと、HDD 用サスペンションが伸びていないこと等が主な要因である。産業機器ほかに関しては、中計で考えていたそれぞれの事業の環境が変わっており、グループ各社が当初予定していた拡販ができていないことが主な要因である。半導体製造装置部品も伸びていない。DDS 事業では、業界動向が大きく変わったことによる。中計策定時は 2013 年には HDD の生産台数が 8 億台になることを前提としていた。
- Q. HDD 用サスペンションについて足下の単価のイメージを教えてください。
- A. 客先から値下げ要求はあるが、現状の数量では単価は下げられない。ほぼ横並びになっている。
- Q. 懸架ばねの VW（フォルクスワーゲン）の新規受注は全世界的なものか？VW が展開している MQB=プラットフォームの共有化は、今後ビジネスの拡大につながるか？
- A. 今回の受注は北米で現行品のみ。ビジネスの拡大はこれからである。

以上